

# 越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2010年

No. 4



## 祝 重要無形民俗文化財指定一周年記念

### 菅製品の常時展示

### 福岡スゲ田マップ完成

### パンフレット発行

平成二十一年三月十一日に、福岡の菅笠製作技術が、重要無形民俗文化財の指定を受けてから、早一年が過ぎました。これを記念し、高岡地場産業センターで、菅製品の常時展示を行うこととなりました。

十種類の菅笠と、民芸品を展示しております。



福岡町のスゲ田は、主に小矢部川左岸の川西地区で多く今もなお作付されています。植付場所につきましては、山沿いの谷間や家の日陰の小さな田で栽培されています。

現在、栽培農家は約五十戸、作付面積は、約百十アールあります。菅笠コーディネーターが、スゲ田を回り、栽培農家及び菅笠技術者の方々にお話を伺いながら、ようやく完成しました。調査にご協力いただき、感謝しております。

作成したスゲ田マップ及び、スゲ農家台帳は、自由に閲覧できますので、ご覧になりたい方は、高岡市役所福岡庁舎二階の事務局までお越し下さい。



保存会のパンフレットが完成しました。菅笠が出来るまでの工程を写真で、詳しく紹介しております。

これから、越中福岡の菅笠をPRするために、パンフレットと共に前進していきます。

作成にあたり、ご協力いただいた会員の皆様には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



# 菅笠体験教室

二月十三日(土) 菅笠づくり体験教室第一回目(見学会)が、木村さん宅で行われました。

会長でもあり、笠骨職人でもある木村さんは、膝元にある置時計の秒針を見ながら、工程を進めているとの事。長年の経験と勘で、行われる手作業に、参加者一同目を奪われていました。

第二回目は、二月二十日(土)二十一日(日)の二日間かけ、ふれあい社会福祉センターで、行われました。会場には、六名の指導の先生方、そして広報募集に応募された二十名の受講生。

まず、しかけ用と、のすけ用とのスゲのより分け作業から始まり、ました。スゲには、表裏があり、やり直しの一幕もあつたり。見よう見まねで先生の横にかじり付きの人もいて、足の踏み場もないくらいです。

しかし、理解力の早い生徒さん方ばかりで、二日間の実施には余裕が感じられました。

「大変だったが、伝統としては、改めて残さなければならぬ」と受講生の方は、語っておられました。

# 掲載情報

ふるさと雇用再生特別基金事業の一環として、「越中福岡の菅笠製作技術」の伝承コーディネートを取り組んで配置して、菅笠製作の後継者育成や菅笠の普及啓蒙に取り組みしております。平成二十一年度に取り組んだ活動や、菅笠を取り巻く状況などをまとめたものが、厚生労働省のホームページに事例のひとつとして掲載されています。

## 菅笠三二知識④

笠縫いは、非常に手間がかかるため、一人一日二・三枚ほどしか縫えません。しかし、家庭で出来る手軽な仕事であり、秋の収穫の終わったころから、春先にかけて福岡近辺では笠を縫う家がたくさんあります。

福岡町では、昔、笠縫い道具は、嫁入り道具の一つになっていた程です。また、嫁をもらうのに、笠を上手に縫うことも大事な条件であったので、女の子は、よく手伝いをさせられました。

# 編集後記

越中福岡の菅笠製作技術が、国の重要無形民俗文化財に指定されてから、一年が経過しました。

一年を振り返りますと、八月には、高岡開町四百年記念イベント「高岡博覧会」に出展。九月には、NHK/BS2の「こんなステキなつぼんが」という番組に全国放送で紹介されました。十月には、東海北陸伝統工芸祭が盛大に行われ、ここでも菅笠の実演コーナーは、大盛況に終わりました。

暮れには、菅笠地蔵さんもお披露目式を終え、私達二人も菅笠の裏工程「はさんけ」の役割はできたのではないかなと自己査定をしております。

(糸岡・畠山)

